

「ICTを活用した教育・オンライン教育の効果検証」に係る 実証事業について（報告）

長野県・三重県

1 経緯

現在、整備が進められているICT環境の有効な活用方法に係る検討を行い、全国知事会の提言へ反映するため、10月26日に開催された第2回「これからの高等学校教育のあり方研究会」（以下、「研究会」）において取り組むこととされた「ICTを活用した教育・オンライン教育に係る効果検証」に係る実証事業について、中室研究室の研究事業の一環として、以下のとおり進める。

2 効果検証の方法

① ICTを活用した学びの効果検証

（株）COMPASSの協力を得ながら、AIドリルを活用し、ICTを活用した効果的な学びに係る実証事業を行う。

○参加縣市

宮城県・宮崎県・熊本市・長野県・三重県

※上記に加えて、研究会委員県以外から島根県も参加

（研究会委員県への意向調査の結果、8校・624名（非活用クラスを含む人数）が参加）

○実施方法

- ・授業においてAIドリル「Qubena」を活用し、生徒一人ひとりに応じた個別最適な学習に取り組む。さらに、各学校の状況に応じて、家庭学習で活用するなどの工夫を講じることとし、柔軟に活用する。
- ・対象学年は1年次とし、教科は数学とする。
- ・効果については、学力テストを事前（12月）と事後（2月以降）実施し、AIドリルの活用クラスと非活用クラスの学力の伸びを測定する。
- ・あわせて、質問紙調査を行い、生徒一人ひとりの学習観や、授業への苦手意識・理解度等の変化等を把握する。また、当該期間中の数学の学習内容を反映した環境教育（2月から3月にかけて1回）に取り組み、数学を学ぶことの意義を理解することに加え、「向社会性」（他者や社会全体に対する配慮や思いやり）を育むことにも挑戦する。

○スケジュール

- ・11月11日：中室先生・（株）COMPASS・参加縣市にて、実証事業の詳細や進め方について協議（オンライン）
- ・11月～12月初旬：「Qubena」導入に向けた諸準備（PCやタブレットの準備（アプリのインストール等）、教員向けの説明会・「Qubena」利用方法に係る研修、質問紙調査の内容確定、印刷・配布等）
- ・12月上旬：事前の学力テスト、質問紙調査

- ・12月～2月：各学校で「Qubena」を利用した授業等を実施
- ・2月下旬～3月：環境教育の授業（1回）
- ・2月下旬～3月：事後の単元テスト、質問紙調査
- ・3月中：環境教育に係る質問紙調査
- ・6月以降：研究会の提言

② 経済産業省「未来の教室」実証事業のデータ活用

①の効果検証の参考として、当該事業のデータ（学習時間や成績分布の推移等）を集約、分析する。

「未来の教室」実証事業：学校と民間事業者が連携し、EdTech サービス(AIドリル等)を学校の授業や家庭学習等に導入、教育課程がどのように再編されるか実証する事業。

○参加縣市

長野県・滋賀県・熊本市

○実施方法

- ・当該事業に係るデータを、受託事業者から実証校を通じて教育委員会に提供。
- ・すらら（すららネット）及びQubena（COMPASS）のデータを活用することとする。すららネット及びCOMPASSにデータ提供を依頼。
- ・個人情報については、実証校の個人情報取扱規約等によるものとする。
- ・氏名等の情報は削除して情報を提供する。
- ・提供時期は、2月下旬を目途とする。
- ・分析は、中室研究室に依頼する。

③ ICT、オンラインの活用に関する実態調査

休業中・コロナ後のオンライン教育に関する課題や要望について、学校へ実態調査を行う。

○参加縣市（予定）

宮城県・滋賀県・岡山県・宮崎県・熊本市・長野県・三重県

○実施方法

- ・調査対象の範囲（学校数等）は、悉皆調査を原則とするが、各自治体が判断し決定する。
- ・回答は、Google フォームを活用する。
- ・分析は、中室研究室に依頼する。

○スケジュール

- ・12月中旬～下旬：調査項目・質問項目について原案作成、精査
- ・1月上旬～中旬：Google フォームの書式作成
- ・1月中旬：参加県・市に依頼文書発送
- ・2月下旬：回答（Google フォームへの入力）締切り